

2) 稚魚ネット調査

根本昌宏・八巻憲治

目 的

新稚魚ネット(口径 130cm)表層水平曳により、重要魚種の卵稚仔の分布量を調査し、稚仔魚相のモニタリングと、資源量・発生量・加入量予測に供する。

方 法

調査は毎月一回実施した。調査定点を図 2 に示す。定点 S1、S2、T1、T2、U1、U2、菊多浦は毎月実施し、定点 S10、S12、S14、U10、U12、U14 は 5、6、8、9、10、11 月に実施した。

調査方法は、新丸稚ネット(口径 130cm)を用いて 2 ノット、10 分間の水平曳きにより卵稚仔および動物プランクトンを採取し、採取後直ちに 5～10%ホルマリンを用いて検体を固定した。

得られた検体は、帰場後カタクチイワシ稚仔魚、カタクチイワシ卵、その他の稚仔魚にソーティングした。

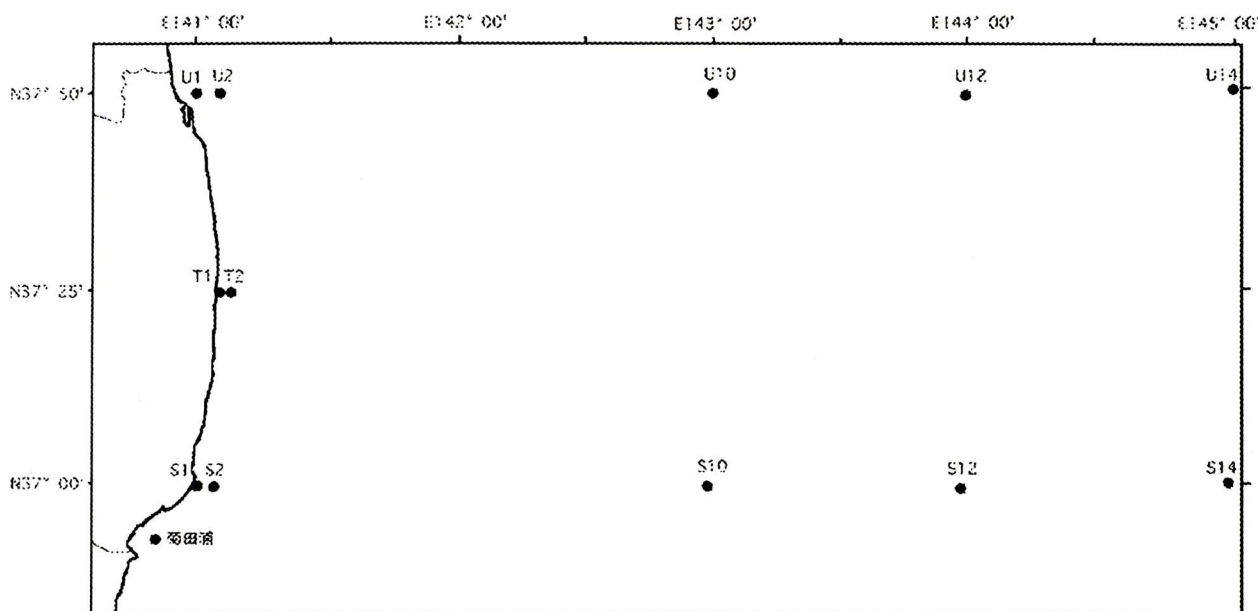


図 2 稚魚ネット調査定点

結 果

結果を表 2 に示す。その他の稚仔魚の査定については今後、詳細な査定を行っていく予定である。